

# 琉球大学学術リポジトリ

## 日米関係（沖縄返還） 14

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者:<br>公開日: 2019-02-13<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: -<br>メールアドレス:<br>所属:       |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789</a> |

45  
3  
20  
東御向長 スカイダイ公使 会談

次官 条約局長 参事官 条約課長 法規課長 安全保障課 北米第一課長

アメリカ局長 参事官 北米第一課長

密通文書 秘 無期限 2部の内 1号

72年 東郷局長、スティーヴン大使会談主要実  
45.3.24. 米比-佐藤

3月20日の東郷局長、スティーヴン大使会談記録  
の主要実、次の通り。

同席者(日方) 大河原参事官、千葉比村-深見、  
米比-佐藤、  
(米側) フィアリー-民政官、フィン-日本部長、  
江比、フキリオ-西書記官

1. 通運協定の上院提出。  
フィン-日本部長より、沖繩通運協定の上院  
に提出し、そのことに関する可能性は、目下、3  
案のうち、大抵、(two out of three) と述べ、  
江比、フキリオに法律顧問の付、可能性は、その以上、12%  
大抵、と述べ、  
(後略) (12%に上る所は、)

内、フィン-日本部長は、提出は、提出時期は、  
GA-6 外務省

① 米側出席者時、一致して、72年の大沢通運年  
年7月のため、72年中、議会、動向に付、予則、かつ、  
予則、多々、と述べ、  
提出の向、と述べ、  
2

72年(通運)に、通運と整理する、  
\*上院の承認とヒリつけよう、と述べ、  
6月以前に上院に提出する、  
また、スティーヴン大使より、後、  
簡単な加と、  
処理すること、  
重要付属の取決め、  
2. 沖繩の弁護士資格者、  
資格付与に、  
ス、大使より、  
内容自体に、  
GA-6 外務省











4. 沖縄基地外引継ぎに因る米軍 [ ] の協定 (防衛庁)

当方より防衛庁より連絡の途には先般、カーパス中持の防衛庁幹部と合談した際、中持より、沖縄基地外引継ぎ等については、米軍と [ ] 防衛隊の話し合いの場を設けて話し合いたい (4月5日具体的話し合いに入る)

中曾根長官もこの話し合いの場を設け、直ちに [ ] 防衛局長と防衛庁側代表に任命した由である。また、中持の防衛庁側に対する提案の内容 (詳細) [ ] 如何と聞いたことは、外公使より、当方は事前連絡を怠ったことを詫言するとも、中持は防衛庁幹部を告知した際、非公式にSOPA task groupの場を設け、4月以降の活動を (構想)

南総しりの11月17日かとの思慮しと述べたに於て、 [ ] 具体的な提案を [ ] 防衛庁に対し、 [ ] 事実上外務省

防衛庁側は、通訳上の理解の不足に因る旨述べ、これに即ち、外公使は、沖縄基地の自衛隊に因る引継ぎの問題は、軍人同志で話し合わせるとするとの最も速きと答へておられる。

米側は、国下、連日政府の訓令待たせられた。4月初旬には、訓令の届到し、実行の開始し、話し合いに入る見通しである旨述べるとともに、米側としては、防衛庁に対する話し合いの内容については、外務省にも通報の用意がある旨述べた。また、沖縄基地外引継ぎに因る軍事上の問題については、防衛庁との話し合いの場を設けるとするとの最も速きと答へた。この旨内閣の場でも、initial contactは外交途路で行うことと述べられた。

5. 各地本件合系之取り扱ひ中取組  
(非公的に意見交換の場として記録略)

1. 協定委員会の取り扱ひ
2. 日米琉管内委員会設置に因り交換公文
3. 沖縄本土の人事交代
4. 大統領行政命令の改正
5. 民政府機能の琉政への移管
6. 琉球政府会計年度の改正